

広島市まちづくり市民交流プラザ運営委員会 第2回運営委員会 会議録

日 時 平成27年10月8日(木) 15時30分～17時30分

場 所 まちづくり市民交流プラザ 南棟4階協議室

出席者 (委員) 波多野委員長、阿部委員、柿本委員、東委員、弘中委員
(プラザ) 津田館長、樋口主任

議事及び会議要旨

議事1 平成27年度事業の進捗状況について

事務局から、平成27年度事業の進捗状況について報告し、下記の意見があった。

- ・新規事業「まちかどコンサート」は公民館グループの出演も可能ということであれば、プラザとのつながりができてよい。

議事2 若者が集まる施設運営について

前回の協議内容を踏まえて、下記の4つの視点から意見交換を行った。

① 若者が生きていく力を育み、育つための施策について

- ・まちづくり市民交流フェスタに大学生等のボランティアスタッフが参加しており、異世代交流の機会となっている。
- ・1階と3階に無線LANを整備し、若者にも利用してもらいやすい環境づくりを行っている。
- ・館長名で講座の「修了証」を発行することは、今後実施可能である。

② 若者にプラザに行ってみたいと思わせる情報提供の工夫について

- ・若者に対する広報は、チラシよりもツイッターやフェイスブックが効果的である。
- ・空き屋が増えている某田舎町に乗り込んだ若者が、ツイッターでその土地の魅力を情報発信することにより人の循環を生み、まちづくりを展開している事例がある。手軽でスピーディー、タイムリーな情報発信は有効である。
- ・プラザで実施した講座の内容や受講生の声を発信できればよいのではないか。
- ・大学生のボランティアリーダーを通じて情報提供を行うことや、日頃ボランティアリーダーの話を聞いている(交流のある)中高年等を通じて情報提供していくとよい。

③ 若者気質を分析する方法について

- ・まちづくり市民交流フェスタへ参加する大学生のボランティアリーダーと話をする機会があり、若い人たちは色々なことを考えていることがわかった。実際に話を聞いてみるのが大切である。

④ 若者が中高年等と交わることにより、親から学べないものを得るための取組みについて

- ・中高年が若者に対して自分の人生(経験)を語る機会があるとよいのではないか。ただし、それが若者の心に響くものでなければ伝わらない。
- ・色々な活動の中で若者をどんどん利用していくことが必要である。若者は関わった人たちの姿を見れば得るものがあるはずである。一つの目的を持って集めた若者と中高年等が活動をとおして交わること。実体験をとおして気付き、感じ取る場をつくっていくことが大切だが、プ

ラザの中だけでは限られるため、他の団体等と連携するとよいのではないか。

議事5. まちづくり市民交流フェスタについて

事務局から、平成27年度まちづくり市民交流フェスタ第2回実行委員会の協議内容について提案し、承認を得た。

【次回の運営委員会】

平成28年2月18日（木）午後3時30分～5時30分

閉会